

北海道港湾空港建設協会

会報

平成27年 9月

北のみなと

No.86



— 目 次 —

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第32回通常総会開催 1

受賞

平成27年度 国土交通省建設事業等関係者大臣表彰 2
 平成27年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰 2
 平成27年度 北海道開発局優良工事等の表彰 3
 平成27年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰 5
 平成27年度 各協会の表彰に関する記事 7
 ・(公社) 日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞
 ・(一社) 日本港湾空港建設協会連合会 会長賞表彰
 ・(一社) 日本海上起重技術協会 会長表彰
 ・(一社) 日本潜水協会 会長表彰
 全建賞受賞(函館港、香深港) 10

各種記事

我が社の安全衛生管理
 (株濱谷建設 品質安全管理部 部長 田尾俊光) 12
 私の趣味「戦史研究」と「道の駅/神社めぐり」
 (ハラダ工業(株) 藤野徹弥) 14

Topics

イベント

函館港まつり 16
 夏を彩る「おたる潮まつり」が開催 17
 大型客船等寄港
 留萌港に「にっぽん丸」寄港 18
 室蘭港に大型客船入港 中国人客3400人“大移動” 19
 大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が釧路港に初寄港 20
 各港で舟漕ぎ大会、ボートレース開催
 (釧路、根室、苫小牧、函館、室蘭、稚内) 21

Information

業界だより 25
 広報委員会だより 25



香深港は礼文島の東海岸に位置する地方港湾であり、フェリーなどによる物資流通拠点や水産業を支える拠点として重要な役割を担っています。さらに離島生活の安全の確保のために防災拠点としての強化を図っています。

みなとを核とした地域の活性化を促進するため、平成23年6月、みなとオアシス「れぶん」として道内離島第1号に登録されました。

日本港湾空港建設協会連合会 第32回通常総会開催



日本港湾空港建設協会連合会の第32回通常総会は、平成27年5月12日（火）に東京都の明治記念館で全国より役員、代議員が出席し盛会裡に開催された。川嶋会長の挨拶に続き、国土交通省港湾局長大脇 崇氏の来賓祝辞があり、議事に移った。

議案は、理事の補充についての報告、平成26年度事業報告及び収支決算、平成27年度事業計画及び収支予算（案）が提出・承認された。なお、総会后、来賓、会員等多数の方が出席されて情報交換会を開催した。第3号議案である平成27年度事業計画は以下のとおり。

平成27年度 事業計画

1 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに会員の意見・要望等を掲載した会報を年4回発行し、会員相互の情報交換を行う。

2 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と技術開発の向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。講習会は春、秋の2回中堅技術者を対象に東地区、西地区において実施し、11月中旬に経営者及び幹部社員を対象に経営者セミナーを東京都において開催する。また、「独占禁止法と暴力団排除条例について」の講習会を（一社）日本埋立浚渫協会と共催で行う。その他、ミニ研修会（行政）を協会会議室で随時開催する。

3 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に係る諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課

題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共同して実施する。

4 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の収集を行う。
- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約、設計、積算に関する調査研究。
- ④労働、安全、税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に関わる調査研究。

5 災害復旧、復興事業に対する協力・支援

東日本大震災に係る災害復旧、復興事業の一日も早い達成のため、全面的に協力・支援を行う。

6 港湾・空港プロジェクトの推進

国又は地方公共団体における港湾空港プロジェクトの発掘、推進に関して、建設業の知見から協力・支援を行う。

7 港湾空港の整備・振興、港湾工事の推進に関する広報・啓発活動

- ①港湾及び空港の整備・振興並びに港湾工事の推進に関し、広く社会一般に理解を得、支持されるための広報・啓発活動を行う。
- ②①と同様、国政の場に反映するため、国内港湾活動の実態や建設工事現場等の視察等を通じ、関係国会議員等の理解、支援を深耕する活動を展開する。

平成27年度 国土交通省建設事業等関係者大臣表彰

国土交通省は7月10日、平成27年度建設事業関係者等大臣表彰の表彰式を行った。

道内からは3名が選出され、うち当協会から㈱森川組の森川基嗣代表取締役社長が受賞された。

表彰は、長年にわたり建設事業等の発展に貢献した建設業関係者や行政関係者を顕彰することを目的に毎年実施しているもの。

森川基嗣社長は、函館建設業協会の会長を務め、地方建設業界発展への寄与とともに、道建協の理事として本道建設業の発展に貢献した。



㈱森川組 代表取締役社長
 ㈱函館国際貿易センター取締役
森川 基嗣
 生年月 昭和21年8月

団体歴

社団法人函館建設業協会 会長

社団法人北海道建設業協会 理事

全日本漁港建設協会 北海道支部 理事

社団法人北海道水産土木協会 理事

建設業労働災害防止協会北海道支部 函館分会分会長

函館シンガポール協会 理事

函館日英協会 理事

函館、江差、オランダ交流友の会 会長

滄海友の会 会長

函館市自衛隊協力会 副会長

北海道自衛隊退職者雇用協議会函館支部長

函館西交通安全協会 会長

新幹線青森・函館同時開業促進期成会 会長

平成27年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者

水産庁の平成27年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰で、道内から唯一、安田建設㈱（本社：枝幸町、安田最次社長）が、水産庁長官表彰を受賞し、晴れの栄に浴した。

同表彰は、高い技術力と優れた施工管理で、他の模範となる成果を残した請負者を顕彰することで、円滑な事業の推進につなげることを目的に実施している。

水産庁長官表彰



安田建設㈱ 代表取締役社長
安田 最次
 生年月 昭和27年12月

会社概要

本社所在地	枝幸町
創業	昭和27年
設立	昭和32年
資本金	9,800万円

平成27年度 北海道開発局 優良工事等の表彰

工事成績評価が特に優秀なほか、創意工夫や技術の向上に顕著な成果などを挙げた企業と技術者に対して、局長及び部長表彰を授与

北海道開発局は7月24日、札幌第1合同庁舎で平成27年度優良工事等局長表彰の授与式を行った。平成26年度に完成した工事1,661件の中から局長表彰工事24件（28社）が選定され、工事を施工した企業と、その工事に携わった技術者に、岡部和憲北海道開発局長から表彰状が授与された。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①岩倉・吉本経常JVが施工した「石狩湾新港ケーソン製作工事」 ②濱谷・機械開発北旺・真壁経常JVが施工した「釧路港護岸工事」の2件（5社）が受賞した。

開発建設部長表彰は、札幌（日本道路株）、函館（株森川組）、室蘭（道南総合土建株、南組株）、釧路（岩倉・渡辺経常JV）、網走（岩倉建設株）、留萌（堀松建設工業株）、稚内（藤・勇経常JV）が受賞した。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：石狩湾新港ケーソン製作工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：岩倉・吉本経常JV

技術者：



三浦 洋一氏
(岩倉建設)



土門 浩之氏
(吉本組)

〔表彰理由〕

本工事は、「①海象条件が厳しくなる10月までにケーソン製作・進水を完了させる。」、「②品質管理の難しい盛夏期に大規模なコンクリート打設を行う。」、「③作業エリアが狭く、FDクレーン操作員の視認が困難な箇所が多い。また、FDの長距離回航が必要」等、困難な条件下での施工となりました。

受注者はこれらの課題に対し、①レイタンス除去作業を効率化させるジョイントテックCT-400（新技術）等の活用による約20日間工程短縮、②コンクリートディストリビューターによる切れ目の無い打設やピカコン等の新技術活用による品質の向上、③モニターカメラ設置によるクレーン操作員の視認範囲の拡大や日本気象協会航路支援情報の活用による回航時の安全性確保といった、工程・品質・安全管理における各種の創意工夫によって克服し、予定工期内に高品質な大型ケーソンを完成させました。加えて工事現場ではインターンシップ受け入れや一般者向け現場見学会に対し、安全対策に配慮しながら積極的に取り組んだ事で相手方から好反応を得た他に、見学会は新聞記事にもなるなど公共事業のイメージアップにも貢献いたしました。こうした技術と広報の両面における努力と工夫は他の模範になるものでした。



○工事名：釧路港護岸工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：濱谷・機械開発北旺・真壁経常JV

技術者：

青木 実宣氏
(濱谷建設)武田 昌己氏
(機械開発北旺)中村 誠氏
(真壁建設)

〔表彰理由〕

当工事は、波浪の影響を強く受ける箇所の施工で、施工期間の制約から東西に隣接工事が輻輳し、作業条件から施工機械にも制約を受ける工事である。当工事では、西側隣接工事と綿密に工程調整の上、資材及び機械の運搬等を行い同時施工を行うとともに、東側隣接工事と施工期間の調整も行い、工期内に工事を完成させた。また、波浪による被災を防ぐため、短いスパンで本体捨石から上部工までを一連で完成させる確実な施工方法を採用している。以上から、厳しい施工条件にもかかわらず、安全及び施工管理に留意して、急速・確実な施工を行い、また、環境に配慮したアイドリングストップ機能付機械の使用、GPS搭載クレーンブーム、2Dガイダンスシステム（新技術）搭載機械の使用など創意工夫を行い、無事故、無災害で工事を完了したことは高く評価でき、他の模範に値する。

【各開発建設部表彰】

○工事名：新千歳空港A滑走路舗装改良工事

発注者：札幌開発建設部

施工者：日本道路(株)

技術者：横田 敏之氏

○工事名：函館港有川部臨港道路擁壁下部工事

発注者：函館開発建設部

施工者：(株)森川組

技術者：佐々木 健吾氏

○工事名：白老港西外防波堤建設工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：道南綜合土建(株)

技術者：三谷 高司氏

○工事名：庶野漁港外1港-3.5m岸壁その他改良工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：(株)南組

技術者：脇坂 渉氏

○工事名：厚岸漁港波除堤建設工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：岩倉・渡辺経常JV

技術者：茶木 政寿氏(岩倉建設)、苧毛 雅氏
(渡辺建設工業)

○工事名：ウトロ漁港人工地盤建設工事

発注者：網走開発建設部

施工者：岩倉建設(株)

技術者：石井 邦広氏

○工事名：苫前漁港東外防砂堤その他工事

発注者：留萌開発建設部

施工者：堀松建設工業(株)

技術者：八田 克利氏

○工事名：宗谷港建設その他工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：藤・勇経常JV

技術者：小坂 昌勝氏(藤建設)、小野 雅嗣氏(勇建設)

平成27年度 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰

北海道開発局は7月22日、札幌第1合同庁舎で本年度の「港湾空港関係功労者表彰」および「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行い、笹島隆彦港湾空港部長が受賞者一人ひとりに表彰状を授与した。

この表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、功労のあった方々を対象に実施している。

今年度の功労者表彰は、株式会社山口工業所（苫小牧市）代表取締役社長 山口志郎氏、丹羽建設株式会社（浜頓別町）代表取締役 丹羽幹典氏、有限会社本間潜水工業所（小樽市）代表取締役 本間武志氏の3氏と前江差町長 濱谷一治氏、前増毛町長 石崎大輔氏、前羽幌町長 舟橋泰博氏が受賞した。また、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動では、「女性みなと街づくり苫小牧（代表 大西育子）」、「広尾サーフィン連盟（会長 佐藤州祐）」の2団体が受賞した。

笹島部長は表彰状授与後のあいさつで「港湾・空港は地域の産業、生活を支える重要なインフラ。事業の推進には皆さんの協力が必要」と感謝するとともに、今後のさらなる活躍に期待を寄せた。



北海道港湾空港建設協会 推薦



株式会社山口工業所 代表取締役社長

山口 志郎 氏

生年月 昭和31年 2月

略 歴

昭和55年 4月	株式会社山口工業所	入社	
平成 3年 4月	同上	取締役	就任
平成12年 4月	同上	代表取締役専務	就任
平成13年 4月	同上	代表取締役社長	就任
		現在に至る	

北海道港湾空港建設協会 推薦

(一社) 日本海上起重技術協会北海道支部 推薦



丹羽建設株式会社 代表取締役

丹羽 幹典 氏

生年月 昭和33年 4月

略 歴

昭和56年 4月	丹羽建設株式会社	入社	
平成元年 4月	同上	専務取締役	就任
平成 8年12月	同上	代表取締役	就任
		現在に至る	

(一社) 日本潜水協会札幌支部 推薦



有限会社本間潜水工業所 代表取締役

本間 武志 氏

生年月 昭和31年 4月

略 歴

昭和50年 5月	有限会社本間潜水工業所	入社	
昭和56年12月	同上	代表取締役	就任
		現在に至る	

平成27年度 (公社)日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞

永年にわたり、港湾の発展に尽くされた功績顕著な方々に贈られる港湾功労者賞の表彰が行われた。平成27年5月27日静岡県静岡市清水文化会館マリナートで開催された(公社)港湾協会の第88回定時総会に先立ち、北海道港湾協会及び(一社)日本海上起重技術協会の推薦により道内から4名の方が表彰されました。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。

北海道港湾協会推薦 (順不同)



鈴木 勝典 氏
生年月 昭和22年2月
太平洋石炭販売輸送(株)
代表取締役社長

略 歴

昭和46年 太平洋炭礦(株) 入社
平成4年 同上 事務部長
平成11年 同上 取締役釧路鉱業所副所長
平成12年 太平洋石炭販売輸送(株) 代表取締役社長
現在に至る



鈴木 勇三 氏
生年月 昭和26年9月
(株)クマシロシステム設計
技術顧問

略 歴

昭和50年 小樽市役所
平成22年 同上 産業港湾部参事
平成24年 (株)クマシロシステム設計 技術顧問
現在に至る



本間 孝哉 氏
生年月 昭和29年2月
(株)アルファ水工コンサルタンツ
常務執行役員

略 歴

昭和47年 北海道開発局
平成22年 函館開発建設部 江差港湾事務所長
平成24年 (株)アルファ水工コンサルタンツ 技術顧問
平成25年 同上 常務執行役員
現在に至る

(一社) 日本海上起重技術協会推薦



本間 久雄 氏
生年月 昭和27年12月
葵建設(株) 技術顧問

略 歴

昭和46年 北海道開発局
平成22年 稚内開発建設部 技術管理官
平成26年 葵建設(株) 技術顧問
現在に至る

平成27年度 (一社)日本港湾空港建設協会連合会会長賞表彰

北海道港湾空港建設協会から10氏が受賞

経営の合理化、工費の適正化、技術の向上、作業の効率化、従業員の労務・厚生改善等で協会の発展に尽くした功績を顕著として、平成27年5月12日東京都内の明治記念館で開催された日本港湾空港建設協会連合会第32回通常総会において、当協会から次の10氏が会長表彰を受賞されました。受賞された皆様には、心からお慶び申し上げます。

代表者表彰



百瀬 治 氏
生年月 昭和23年 9月
機械開発北旺(株) 代表取締役社長

略 歴

平成15年 助港湾空港建設技術サービスセンター 北海道支部長
平成17年 北海道機械開発(株) 専務取締役
平成20年 同社 代表取締役社長
平成20年 商号変更 機械開発北旺(株) 代表取締役社長
現在に至る



白崎 義章 氏
生年月 昭和33年 1月
白崎建設(株)代表取締役社長

略 歴

昭和60年 白崎建設(株) 技術室長付
平成 6年 同社 取締役副社長
平成11年 同社 代表取締役社長
現在に至る

従業員表彰 (順不同)



松村 正基 氏
生年月 昭和29年 1月
白鳥建設工業(株) 常務取締役

略 歴

昭和63年 白鳥建設工業(株) 入社
平成22年 常務取締役
現在に至る



古屋 英幸 氏
生年月 昭和32年 8月
(株)西村組
工事部執行役員工務部長

略 歴

昭和53年 (株)西村組 入社
平成17年 同社 工事部長
平成25年 同社 執行役員工務部長
現在に至る



佐々木 佐歳 氏
生年月 昭和31年 5月
堀松建設工業(株) 安全衛生部長

略 歴

昭和50年 北海建設(株) 入社
昭和62年 (株)河野組
昭和63年 堀松建設工業(株)
平成24年 同社 安全衛生部長
現在に至る



堰根 典次 氏
生年月 昭和33年 4月
機械開発北旺(株)
工事部次長兼技術管理部次長

略 歴

昭和56年 北海道機械開発(株) 入社
平成19年 同社 工事部工務部長
平成20年 機械開発北旺(株) 工事部工務部長
平成24年 同社 工事部次長兼技術管理部次長
現在に至る



石戸谷 敦 氏
生年月 昭和34年11月
村井建設(株)土木舗装部土木課課長

略 歴 昭和55年 村井建設(株) 入社
平成19年 同社 土木舗装部土木課 係長
平成25年 同社 土木舗装部土木課 課長
現在に至る



沢田 裕 氏
生年月 昭和33年11月
藤建設(株)執行役員 稚内事業部長

略 歴 昭和52年 藤建設(株) 入社
平成18年 同社 礼文支店
平成21年 同社 稚内事業部長
平成26年 同社 執行役員稚内事業部長
現在に至る



熊野 克敏 氏
生年月 昭和37年 9 月
(株)吉本組 事業部工事課長

略 歴 昭和56年 (株)吉本組 入社
平成17年 同社 事業部工事課課長補佐
平成26年 同社 事業部工事課長
現在に至る



堀 儀之 氏
生年月 昭和37年 5 月
(株)松本組 工事課長

略 歴 昭和56年 (株)松本組 入社
平成18年 同社 工事長
平成24年 同社 工事課長
現在に至る

平成27年度 (一社)日本海上起重技術協会会長表彰

永年にわたり協会発展のために尽力・精励し特に功績顕著として、(一社)日本海上起重技術協会会長表彰が、平成27年5月14日東京都内の都市センターホテルで開催された第29回通常総会において行われ、(株)富士サルベージの原田仁氏と小針土建(株)の川上信幸氏が受賞されました。受賞されたお二人には心からお慶び申し上げます。



原田 仁 氏
生年月 昭和31年 8 月
(株)富士サルベージ

略 歴
昭和54年 (株)富士海洋土木 入社
平成 4 年 (株)富士サルベージ 入社
平成 6 年 「海上起重作業管理技士」取得
平成18年 同社 取締役業務部長
平成23年 同社 常務取締役
現在に至る



川上 信幸 氏
生年月 昭和36年 7 月
小針土建(株)

略 歴
平成10年 小針土建(株) 入社
平成10年 「海上起重作業管理技士」取得
平成21年 「海上起重基幹技能者」取得
現在に至る

平成27年度 (一社)日本潜水協会会長表彰

永年にわたり、(一社)日本潜水協会並びに潜水業界の発展のため多大の貢献をされ、とくに顕著として平成27年5月26日東京の東京會館で行われた第43回定時総会において会長賞が授与されました。受賞されたお二人には心からお慶び申し上げます。



小松原 雅一 氏
生年月 昭和40年 5 月
伊藤建設(株)

略 歴
昭和60年 島田建設(株) 入社
平成26年 伊藤建設(株) 入社
現在に至る



中村 徹也 氏
生年月 昭和43年 7 月
(株)大步 代表取締役

略 歴
昭和58年 (株)富士海洋土木 入社
平成25年 (株)大步設立 代表取締役
現在に至る

全建賞受賞

事業名：函館港弁天地区船だまり整備事業

函館市国際水産・海洋総合研究センター整備事業

受賞機関：国土交通省北海道開発局函館開発建設部函館港湾事務所

北海道函館市

実施期間：平成19年12月12日～平成27年3月31日

「事業概要と評価」

輻輳する調査船・練習船を弁天地区に集約することにより、函館港の混雑を緩和し、かねてより問題となっていた荷役待ちを解消した点が評価された。併せて、中詰め材に当該現場で発生した浚渫土を用い、工費削減に努めている点も評価された。



供用開始後の弁天地区



事業名：^{か ふか こう}香深港本港地区耐震強化岸壁整備事業

受賞機関：国土交通省北海道開発局稚内開発建設部稚内港湾事務所

実施期間：平成17年5月17日～平成25年12月25日

「事業概要と評価」

耐震岸壁本体工に消波機能を導入したことにより、港口に直面する位置にありながらも、経済的に所用の利用率を確保したことが評価された。併せて、泊地浚渫で発生した破碎岩を液状化対策の材料に有効活用したことで、輸送費・材料費を削減したことも評価された。



スリットケーソンによる反射波対策



漁場へ配慮した施工

我が社の安全衛生管理

㈱濱谷建設 品質安全管理部 部長 田尾 俊光

1. はじめに

当社は、昭和49年濱谷潜水部として創業を開始し、昭和61年現在の㈱濱谷建設と社名を変更して道東の釧路を拠点に港湾工事業を展開して、現在は、釧路本社をはじめ、苫小牧・東北・京浜に営業所設立し、道内最大の400t吊り起重機船を2隻有し事業展開を図っております。

当社では、「互いに切磋琢磨し、滾る情熱と高い志を有し、果敢に行動する社員を以って組織され社会に貢献する価値ある事業を営むことを旨とする」を社訓に「地域社会に貢献できる企業」を経営理念として全社員一丸となって顧客や地域社会に貢献できる企業を目指しております。

2. 安全衛生方針

当社は、「作業手順を見直し、潜んでいるリスクを洗い出す。創意工夫で職場の安全を確保し、作業の安全性向上と効率化を図る。」を基本方針として、年度毎に安全目標、安全スローガンを策定し、快適で安全な作業環境を確立するため、全社一丸となって安全衛生活動に取り組んでいます。

平成27年度安全衛生管理方針

「安全目標」

作業時は安全施策を厳守し

【死亡労働災害「ゼロ」、休業災害「ゼロ」】

「安全スローガン」

【職場では勇気をもって声を掛け、

危険の芽を早期に摘み取り安全作業】

3. 安全衛生管理計画

1) 本社安全衛生管理計画

安全衛生管理計画は、「安全目標」を達成するための具体策を「重点実施事項」として策定し、各々の有効性や達成度を検証し次年度安全衛生計画に反映させていきます。

平成27年度「重点実施事項」

- ①新たな危険要素の洗い出しと改善した設備・用具の維持管理
- ②リスクアセスメント作業手順書の100%実施
- ③整理・整頓の徹底（現場・作業船・休憩所・倉庫・事務所）
- ④リスクアセスメントKY（危険のポイントと対策を具体的に絞り込む）の実施

2) 作業所安全衛生管理計画

作業所では、本社策定の安全目標を達成するため、工事着手前に工事担当職員、経営者、各部部長、技術職員にて工事施工検討会を開催し、現場の特徴を踏まえた危険作業や危険個所の抽出を行い、さらに具体的な作業所安全衛生計画を策定しています。

4. 安全衛生管理活動

1) 全社安全大会

毎年5月に全社員と協力会社の参加により全社安全大会を開催しております。

本大会では、濱谷社長からの訓示、釧路海上保安部、釧路警察署から外部講師を迎え、海難事事故例を基にした事故防止対策や地域特有の交通事故災害・多発地域等の講話、前年度優良職員、優良協力会社、優良船団の表彰を行っています。



社長訓示（道東経済センターにて）

また、当年度安全衛生管理計画について説明を行い、全社員・協力会社が一丸となり安全意識の高揚を図り、安全目標達成に向け確実な安全活動を実践することを誓います。



全社安全大会

2) 店社安全パトロール

毎月1回、工事部長及び品質安全管理部長による品質安全パトロールを実施しております。

その際は、各現場に出向き、安全管理実施状況を点検し、当社独自の設備に関する重点的に本社チェックリストにより点検し、指導しております。是正指示事項に対しては、是正後書面による提出により、安全衛生委員会での報告で各職員にも水平展開しております。



店社安全パトロール

3) 特別安全教育・パトロール

当社では、安全コンサルタント事務所に依頼し、各現場の特別安全パトロールを実施しており、部外者の視点から法令面や衛生面など店社パトロールにより見逃している面が無いかを再確認しております。また、今年度改正になった足場や高気圧作業安全衛生規則に対処すべく職員・協力会社関係者の参加により「特別安全勉強会」を開催して安全管理の向上を図っております。



高気圧特別安全勉強会

4) Web会議システム導入

今年度事業計画にて各営業所や地方現場が本社と更なる密接な繋がりの中施工できるように「Web会議システム」を導入し、各現場の進捗や安全管理状況をリアルタイムに共有し、特に若年層の職員に対し、安全面の不備や改善点をモニター上にてベテラン職員が指示し、安心な職場環境と災害を未然に防ぐ対策の一つとして構築しました。

5. 作業所安全衛生管理活動

各作業所では、作業所安全衛生管理計画をもとに、現場特性を考慮した作業所安全目標や重点項目を掲げ、安全大会、安全教育等の安全行事やKY活動、設備機械点検等日常安全管理活動により安全衛生活動の強化に努めています。特に協力会社作業員から提出されるヒヤリハットに対しては「安全管理の宝」として大事故に繋がる前の危険な芽を摘み取るヒントとして留意し、リスクアセスメントへと水平展開して安全衛生管理活動を実践しています。



安全朝礼



TBM・RKY活動

6. その他の活動

毎年8月に活気のある釧路の港まちづくり活動の一環として「釧路港舟漕ぎ大会」の大会運営係、大会中の海上安全管理を計画・ボランティア活動として実施しております。

また、釧路の港がどのように造られていくか、小学生を対象に港湾工事に興味を持っていただけるように毎年「港見学会」を実施しております。



釧路港舟漕ぎ大会



港見学会

7. むすびに

今後も、安全を最優先に考え、現場特性を踏まえた危険箇所を見抜ける職員教育を充実させ、協力業者の皆さんとの連携をさらに強固にし、リスクを洗い出し、事前にリスク箇所を排除し、労働災害ゼロの目標を達成する努力をしてまいります。そして「地域に貢献できる企業」をめざし、邁進していきたいと思っております。

私の 趣味

「戦史研究」と 「道の駅／神社めぐり」



ハラダ工業株式会社
藤野 徹弥

立派な趣味は持ち合わせていないので、ライフワークとしている2つを挙げ、雑感を含めて披露させていただきます。

1 「戦史研究」

男子として生まれたならば、学生時代に一度は「戦国時代」や「三国志」、「水滸伝」などに没頭するものですが、私の場合はそれがエスカレート？して近代へ近づいてゆき、最終的には近現代の戦史に行きつきました。きっかけは、全寮制の男子校で過ごした高校時代、ふとしたことから阿川弘之の書籍を大量に譲り受け、時間を持て余していた私は読みふける毎日を過ごしました。

阿川氏は東京帝大卒の海軍予備学生（米国のROTC制度のような、戦時の予備士官登用制度）として海軍に入隊しその経験をもとに各種著作を記した文豪です。私も「春の城」「雲の墓標」をはじめとして提督三部作「山本五十六」「米内光政」「井上成美」、「軍艦長門の生涯」などを読みました。阿川氏のスタンスは「海軍善玉説」とも言われ、東条総理に代表される陸軍が日独伊防共協定～三国同盟

への一連の先鋭化を主導し、米国との国力差を深く理解している海軍（良識派）が開戦阻止に奔走するもやむなく対米開戦に至った・・・というものであり、ややバランスを欠くとも言われますが、私は、氏の文献は帝国海軍の絶頂期を水兵の日常から連合艦隊司令長官の素顔までを細やかな描写で綴ったものであり、貴重な資料と認識しています。

阿川弘之の書籍を皮切りに、大東亜戦争前後の帝国陸海軍を中心に戦史を個人的に学ぶようになりました。古くは「孫子」から始まり、クラウゼビッツの「戦争論」など、古今東西、戦のセオリーは現代のビジネスにも多くの示唆を与えますが、その中で出会った本のひとつが山本七平の「空気の研究」です。歴史的な転換点を取り上げ、なぜそのような判断に至ったのかを分析し、そこには「空気」というものがあると記しています。数年前に流行った「KY」とは若干趣を異にしますが数十年前に既にそのような研究が行われています。

少々脱線しました。大東亜戦争はミッドウェー海戦を転換点として我が国は一方向的に負け続けたやに認識されていますが、田中雷三少将が劣勢の精鋭駆逐艦部隊をもって敵巡洋艦部隊を壊滅させたルンガ

沖野戦、奇跡の作戦と言われた木村昌福少将の「キスカ島撤退作戦」、ノモンハン・インパールで見事な采配を見せつけた宮崎繁三郎少将など見どころも多く、それらの判断／決断は現代の経営にも通じるところがあると思いますし、仰々しく言えば、先人の歴史を理解することがアイデンティティに繋がると考え、暇を見て研鑽に励んでおります。

「道の駅／神社めぐり」

私は約2年前に東京から留萌にやって参りました。それまでは留萌に住んだこともなく、高校時代から関東で暮らしており北海道での生活も約20年ぶりでしたので、当初は道路や地域の理解や建設業の勉強も兼ねて、休みの日はクルマを走らせて建設現場や建築物を見て廻っておりましたが、そのなかで道の駅や地域の氏神を詣でることが増えてゆき、現在のところ道内にある道の駅の約6割を踏破しました。道内道の駅の中から私のオススメをいくつかご紹介いたします。

①おんねゆ温泉（北見市）

こちらは駐車場がとても広く、シンボルたる「からくり時計」があり、なにより水族館を併設していて皆が楽しめる道の駅です。

②愛ランド湧別（湧別町）

遊園地が隣接しており、サロマ湖を眺められる大観覧車が魅力。駐車場もかなり広く停めやすいです。

③わっかない（稚内市）

JR稚内駅も入る複合型施設にある

珍しいタイプの道の駅。個人的にはこのようなコンセプトの複合施設が理想的であると考えます。

（番外編）フォーレスト276大滝（伊達市）

トイレの豪華さは一見の価値あり。大きなログハウス調の建物も魅力です。

また、道の駅ではないですが、富良野市にある「フラノマルシェ」はよく足を運んでおります。中心市街地活性化の成功例として著名ですが、我が留萌でもこのようなことができないか？と日々模索する毎日です。

神社については少しだけ。私が考えるに、立派な「マチ」の条件とは「草刈りが行き届いている」と「神社が大事にされている」ことであると、多くの市町村を巡るうちに確信を持ちました。わがマチ留萌の神社は来年230周年を迎えますので、微力ながら再興に力を尽くす所存です。

駄文拙文大変失礼いたしました。



留萌神社例大祭

イベント

函館港まつり

函館最大の夏イベント「函館港まつり」が8月1日開幕し、5日までメインのパレード「ワッショイはこだて」をはじめ花火大会やペリーボート競漕、ライブなど関連行事が多彩に行われ、函館の夏を盛り上げた。函館港まつりは1934（昭和9）年3月の函館大火からの復興を記念して35（昭和10）年に第1回が開かれ、今年が80周年の節目。

開幕した1日は、初日のメイン行事である「花火大会」が函館港緑の島を打ち上げ場所にして開かれた。5部構成で行われ、60回記念の大玉60発が次々と打ち上がり、港を昼のように照らすと大きな歓声がわき起こった。

2日は市民パレード「ワッショイはこだて」が函館市内の十字街・松風コース（約1.4km）で始まった。約9千人が浴衣姿などで「函館港おどり」や「函館いか踊り」を披露。函館港の若松南ふ頭では、8人乗りの手こぎボートで競う「函館ペリーボート競漕」も行われた。

3日は市民パレード「ワッショイはこだて」の堀川・五稜郭コース（約1.5km）で約1万2千人が参加して行われた。最終日の5日は、JR函館駅前交差点から松風町交差点までを歩行者天国として「函館港おどり・いか踊り大会」などのイベントを行い、閉幕した。

（記事は北海道新聞、函館新聞から抜粋して掲載しました）



夜空を彩る大輪の花火



勢いよく火花を噴き上げる手筒花火



「函館いか踊り」を楽しむ参加者たち



そろいの浴衣で「函館港おどり」を踊る参加者

夏を彩る「おたる潮まつり」が開催

49回を数える「おたる潮まつり」が、7月24日から26日の日程で開催された。ときおり雨が降る天候であったが、大きく崩れることもなく、「潮ねりこみ」、「神輿パレード」、「潮わたり」、花火大会などの全日程の行事が無事終了した。

メインイベントの「潮ねりこみ」は25日に行われ、学

校や企業、町内会などの単位でつくる89梯団、約7千人が参加し、花園地区の繁華街から小樽港第3ふ頭付近のメイン会場まで約1.6kmを1時間半かけて練り歩いた。来場者数は、平成25年の第47回目の108万人より5万人多い113万人となり、来年の50回目に向けて弾みを付けた。
(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



大勢が練り歩いた「潮ねりこみ」



6基の神輿による「神輿パレード」

写真提供：小樽開発建設部提供

大型客船等寄港

留萌港に「にっぽん丸」寄港

商船三井の大型豪華客船「にっぽん丸」（2万2472トン）が7月7日、留萌港の古丹浜岸壁に寄港した。接岸した午前9時すぎは雨交じりの強風だったが、高橋定敏留萌市長は北海道日本ハムファイターズのユニホーム姿で出迎え「ようこそ留萌へ。野球は日ハム、船はにっぽん丸」と悪天候に負けない笑顔で歓迎した。

にっぽん丸の寄港は昨年に続き5回目。商船三井の3日間のツアーで、6日に新潟西港を出港し、7日の日中は富良野の花畑や留萌、増毛、小平など管内の周遊観光を楽しんだ。

（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）



古丹浜岸壁に接岸した「にっぽん丸」



紙テープが交錯するなかでの見送り



入港する「にっぽん丸」

室蘭港に大型客船入港 中国人客3400人“大移動”

アジア最大級の豪華客船ボイジャー・オブ・シーズ（13万8千トン）が5月29日、中国・天津発着の日本クルーズで室蘭港に入り、3400人も中国人客が約80台のバスで西胆振を観光した。今回のクルーズで道内に寄港するのは室蘭だけ。北海道運輸局によると「これほどの中国人客が客船で一度に道内入りするのは初めて」という。

同船は米国のクルーズ会社が運航し、今年の室蘭寄港は横浜から天津に向かう途中、日本人客などを乗せて立ち寄った16日に次ぎ2回目。全乗客は3600人。23日に天津を出発し、神戸や横浜を経て入港した。

（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）



崎守ふ頭に接岸した「ボイジャー・オブ・シーズ」



歓迎する市民

大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が釧路港に初寄港

釧路港に寄港するクルーズ船としては最大の「ダイヤモンド・プリンセス」(11万6千トン)が7月10日、釧路港西港区へ入港した。

この日は停泊中の同船で市民見学会が開かれ、参加者は優雅な船旅の雰囲気を楽しんでいた。

同船は全長290メートルで、水面からの高さは54メートル。乗客は2706人に上る。今回は横浜発着で道内やサハリンを巡る10日間のツアー。

市民見学会には、約100人が参加し、スロットマシンが並ぶカジノや大航海時代の1等客室をイメージしたバー、700席を備えるシアタールームなど豪華な施設を見学。また、この日は標茶高校の生徒約50名が、釧路フィッシャーマンズワーフMOO隣のEGGで同船の外国人観光客をもてなすボランティア活動を実施。釧路駅周辺の地図を片手に外国人客を案内した。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



霧の西港岸壁に接岸したダイヤモンド・プリンセス



船内のカジノの施設



船内のシアタールーム

(釧路開発建設部釧路港湾事務所提供)

各港で舟漕ぎ大会、 ボートレース開催

第11回釧路港舟漕ぎ大会 (国際バルク戦略港湾整備促進大会)

「国際バルク戦略港湾整備促進大会」と銘打った第11回釧路港舟漕ぎ大会が8月8日、釧路川の幣舞橋—久寿里橋間で開かれ、一般の部70チームと女性部20チームが出場し熱戦を繰り広げた。

一般の部では、「J&HI」が優勝。女性の部では「漕ぎまくり隊」が優勝。共に連覇を果たした。

同大会にはそれぞれの船に8人が乗り込み、往復200メートルのコースでタイムを競った。この日、決勝が行われた午後2時は気温20.1度の曇り空ではあったが、会場は出場選手や見物客の熱気に包まれた。選手は両岸から声援を受け、一生けん命ゴール目指しオールを漕いでいた。
(記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました)



白熱したレースを展開する舟漕ぎ大会



なでしこも頑張る舟漕ぎ大会

ねむろ港まつり舟こぎレース

ねむろ港まつり2日目の7月19日、根室港市場前で恒例の舟こぎレースが行われた。市内や釧路町から27チームが参戦し、一般の部は市内の「風林火山」、女性の部では「アフロズ」がともに連覇を果たした。

舟こぎレースはこぎ手6人、声掛け1人、のぼり持ち1人の計8人が往復200メートルのタイムを競うもの。今年是一般の部に19チーム、女性の部に8チームが出場。青空の下、各チームは熱戦を繰り広げ、予選、準決勝、決勝レースへと駒を進めた。

中にはかじを取られてくるくる回り、あらぬ方向に進んでしまうなど悪戦苦闘する船も。会場には職場の仲間

や家族らが応援に駆け付け、熱い声援を送っていた。

(記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました)



熱戦を繰り広げる舟こぎレース (写真は根室港湾事務所提供)

苫小牧港はすかっぱボートレース

8月8日、苫小牧みなとまつりの行事として苫小牧港西港区キラキラ公園で、「苫小牧港はすかっぱボートレース」が行われた。

この日の苫小牧は朝から曇り空で、午前中はときおり小雨が降って肌寒く、海上模様はやや風波がある悪条件

であった。ボートレースは、苫小牧市内の企業などから24チームが参加してタイムレースを競った。選手たちは、好タイムを期待して寒さとうねりと戦いながら必死の形相でオールをこいでいた。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



風波の中のボートレース



お揃いの扮装で出場

函館ペリーボート競漕

函館港まつり協賛行事の「函館ペリーボート競漕」が8月2日、函館港の若松南ふ頭で開かれた。幕末、箱館奉行が小舟でペリー艦隊に向かった史実にちなんだ毎年恒例のレースで、今年は市内などから過去最多の58チーム(一般45、女子13)が参加、一般の部と女子の部に分かれ、優勝を目指して白熱したレースを繰り広げた。

ボートには漕ぎ手6人とリズムを合わせるドラ、かじ取りの計8人が乗船、往復150mのコースで1レース2～3組のトーナメント方式で争われた。選手は一丸と

なってオールを漕ぎ、観客も選手に声援を送っていた。決勝は一般、女子ともスタートから接戦を繰り広げる好レースを展開。一般は富士サルタイタンズ(富士サルバージュ)が初優勝した。

今年の一般の部には、当協会の会員企業である、初優勝した富士サルバージュ、残念ながら2回戦で敗退した菅原組・工藤組・松本組(B)、1回戦敗退の松本組(A)の4社(5チーム)が参加している。

(記事は北海道新聞、函館新聞から抜粋して掲載しました)



白熱したレースを繰り広げた



接戦の好レース

港まつり初参戦 フィナーレ飾る 「鉄人舟漕ぎ」市民熱狂

第69回むろらん港まつりが7月26日、3日間の日程を終えた。最終日は、むろらん港鉄人舟漕ぎ大会が同まつりの一環として初めて開催。断続的に雨が降る中、出場チームが好レースを展開。夕方にかけて雨も収まり、よさこいソーランinむろらん&胆振・千歳支部大会は中島町と港ふれあい広場で行われ、最終日を飾った。

第4回むろらん港鉄人舟漕ぎ大会は、室蘭港中央埠頭沖特設会場で行われ、出場24チームが優勝目指して熱戦

を繰り広げた。初めてむろらん港まつりの一環として開催。陸上自衛隊幌別駐屯地の隊員で構成する「舟漕ぎま〜す」が連覇した。

開会式で、主催者を代表して同実行委員会の白川皓一実行委員長が「天然の良港で実施する事に意味がある。楽しみながらいいタイムでゴールしてほしい」とあいさつ。青山剛室蘭市長が「室蘭港に感謝し力を競い合って」と呼びかけた。（記事は室蘭民報から抜粋して掲載しました）



選手宣誓



熱戦の鉄人舟漕ぎ大会



白熱する鉄人舟漕ぎ大会

稚内副港ボートレース

稚内副港ボートレースは8月3日、第1副港で開いた。好天の下、出場の37チーム440人が、浜風と夏の日差しに負けじとばかりに力強くオールを漕ぎ、会場を盛り上げた。

多くの市民が楽しめるイベントとして、ボート愛好家から職場の同僚、友人同士など幅広い層が出場。女性チームの参加も目立った。1チームは8人の漕ぎ手と音頭、舵取りの計10人。直線折返し160mのコースで、タイム

を競った。

1レースはおよそ1～2分。直線では漕ぎ手が懸命に水をかき、勝負の見せ場となる折り返し地点では、舵取り役がタイミングを見計らって船を旋回。予選では、真っ直ぐ進んでいるつもりが、浜風に煽られ困惑する選手の姿が笑いをさそった。

(記事は日刊宗谷から抜粋して掲載しました)



大勢の市民が応援



接戦のボートレース

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●(株)菅原組

代表取締役 菅原 修 平成27年6月

◎広報委員会だより◎

平成27年9月現在の広報委員は次表のとおりです。

委員長	金子 功	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
委員(部会長)	小山 良明	白鳥建設工業(株)
(副部会長)	大倉 正憲	勇建設(株)
(副部会長)	志賀 保	五洋建設(株)
(副部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
	大西 治朗	菱中建設(株)
	櫻庭 榮	(株)中田組
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	渡辺 修司	(株)菅原組



バリアフリー対応のフェリーターミナル (香深港)

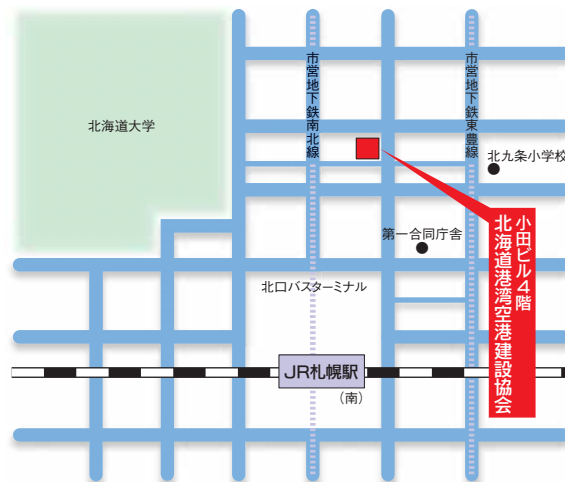


西海岸クルーズへ出発 (香深港)



うめーべやフェスティバルの状況 (香深港)

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.86

発行年月 平成27年9月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 小山 良明
 印刷 須田製版